

ハワイで腎臓移植 概要

Hawaii Transplant(Kidney) Out line

「概要」

実施病院	The Queen's Medical Center (POB III) Transplant Center 550 S. Beretania Street, Suite 404 Honolulu HI 96813		
コンタクト先	Catherine MILONI	Phone: 808-691-8897	FAX: 808-691-8896
概算費用	Transplant Manager 移植手術費:30万~35万ドル (キャッシュで払うと30%程度の値引きあり) 手術前透析治療費は別途必要 加えて滞在費、コーディネーター費用も別途必要		
移植実績	死体間腎移植:30~40事例/年間 (5%程度が 外国人枠として道義的にOKとなっている) 5%の外国人枠(1.5人~2人/年)の内、すべてが”日本人”に割り当てられるわけではない。		
待機期間	健康状態が良ければ登録から2年~7年程度(血液型でAB型が一番早く、B型が一番遅い)		
手術入院期間	最短で4日間 標準で1週間		
術後通院期間	退院後 5週間程度 Totalで術後 6週間		

<メリット>

ドナーが日本に比べ豊富で、待機期間が短くてすむ(日本は宝くじが当たる確立程度であると聞いている)
移植医療の技術は中国・比等に比べアメリカが勝っている。
臓器の売買等(中国、比国のように)はまったくないので、人道的である。
ハワイは状態のいい(若くて、体格がいい脳死状態の)臓器が出現する確率が高い。
ハワイは日系人を含め東洋系の人種が人口の多くを占めているため、体格、血液の型を含めて日本人にマッチしたドナーが現れる可能性が多い。
アメリカの臓器移植医療は世界でも最も進んでおり、事例数も日本に比べて格段に多い。
移植チームの中に日本人外科医のスタッフがいる。 *日本人外科医
移植後、日本に帰国しても、米国での移植の場合、日本の病院は受入れてくれる。

<デメリット>

海外移植は日本の保険対象外となり費用がかさむ。
ハワイはアメリカ本土(例:カルホルニア大学SFO校病院で225ドナー/年)よりドナーの数が少ない。

<資格>

慢性腎不全でGFR \leq 20 もしくは現在透析治療中であること。
13歳以上65歳未満、心&肺&肝機能が正常であること。タバコを吸っていない、違法薬物を摂取していない
BMI(肥満)が35以下であること。ガンではないこと。HIVが陰性であること。多臓器不全でないこと。
精神障害がないこと。輸血を拒否しないこと。術後の薬をまじめに摂取できること。

「ステップ」

A ドナー登録(Registration)

腎臓内科医の紹介状を作成してもらいこれをまず移植チームに提出
移植チームに打診し、(移植)評価(面談)試験「Transplant Evaluation」のスケジュールをセットアップしてもらおう
評価試験に向けて、日本で健康状態をチェックするための各種検査データ、診断書等の書類を準備をする
上記書類を提出し、追加の検査データ、書類等がないか?確認する。
ハワイでの担当医(腎臓内科医)を決める。この担当医にて健康診断を受ける。
ハワイでの移植外科医、と面談し、この担当医にて健康診断を受ける。
ハワイで、移植チームでの評価試験(Transplant Evaluation)を受ける
移植コーディネーター、ソーシャルワーカー、管理栄養士、薬剤師、ファイナンシャルコーディネーター等の面談があり、移植に関する説明と、移植可能かの?(経済的状況と健康状態等も含めて)試験がされる。
移植に関する説明を聞き、納得すると、契約書にサインをしてDeposit(\$10,000)を入金する
ドナー登録にあたっての血液検査も実施される。
評価試験会議で検査が必要となった場合は費用が別途必要です。
移植チームでの結果会議(合否判定)を開き、合格後 移植待ち待機リストに記載される。

B 年1回の定期健診

ドナー登録後 1年に1回 ハワイでこの移植チームの定期面談が必要
移植待ち継続意思表示と、患者の身体状況の確認の為 1時間程度の面談
最新の健康状態をチェックするための各種検査データ、診断書の提出が必要となります。

この中に(ハワイの担当医)腎臓内科医の所見が必要ですので、この医者との検診も必要となります。

C 移植チームからの打診

ドナーの順番待ちが”TOP-10(10番目以内)”に入ると、ハワイ滞在の推奨(レコメンド)がくる

* 基本的には日本での待機もOKですが、ハワイ待機の方が回答無しで飛ばされる事がない。

D アメリカ滞りの準備

ハワイで移植をするにあたり、ハワイでの(長期)滞りの準備を進めなくてはなりません。

1.ビザの手配

滞在期間が3ヶ月を超える事がある場合、”B”ビザ(観光=医療ビザ)の取得準備を進める
もしくはビザウエバー(無し)で入国し、3ヶ月を超えるようならば移民局に滞在延長の手紙を書く

2.住居先の調査&手配(ハワイでの長期滞り先)

3.滞り(待機)期間中の透析治療の手配

4.人材の手配-滞り中の介護、病院送り迎え、通訳等の現地でサポートしてくれる人材を確保

5.お金の準備 銀行口座開設、日本からの送金、カード作成等々

6.ハワイでの移動手段の確保(レンタカー、タクシー等)と通信手段(携帯、インターネット)の確保

(Eハワイへの渡航と待機)

上記準備ができたい、ハワイにやってきます。

当然、待機期間中も透析治療をうけます。

月1回程度 担当医(腎臓内科医)への受診

F ドナーが現れ、<クロス・マッチ>適合試験を受ける。

1.移植チームからドナーが現れたとの電話がある。(24時間体制で受信可能な状態であること)

2.患者に電話連絡し、病院にいつ来れるかを確認し、移植チームに連絡する。

この時、即座に連絡できないと順番がすぐに飛ばされる。(よってハワイ待機が望まれる。)

3.患者を連れて 移植チームを訪問 説明を受け、検査の手続きを取る。

4.各種検査を受け、移植臓器との整合性を検査する。

5.検査結果で適合性がOKな場合、再度連絡があり、手術の時間が告げられる。

ドナーが現れると補欠候補者を含め、2~3名の待機患者がこの検査を受けて、該当者が決定する。

* 最終決定されるまで、この過程が繰り返されるのでこの点でも日本待機は難しい。

G 手術当日

1.患者と病院に出向き、手術の手続きをする。

2.手術前の各種検査を受ける

3.手術に関する説明を受ける

4.手術開始(問題がなければ 3時間程度の手術)

5.手術後、状況の説明があり、そのまま、集中治療室<ICU:24時間>に入る。

H 術後の入院

1.術後ICUで24時間観察後、問題がなければ一般病棟へ移動

2.一般病棟での入院治療

3.この間、免疫抑制剤等の薬に関する 各種説明がある。

4.ドクターの許可で退院(一般的には術後5~6日間程度)

I 術後の通院(退院後5週間ぐらいをめぐりに)

退院後 病院を外来訪問し、各種検査、ドクターの検診(術後の様子)、薬の調整をする。

1週目~2週目 -- 毎週3回程度の通院(2時間程度)

3週目~5週目 -- 毎週2回程度の通院(2時間程度)

4週目 -- スtent(支持ワイヤー)の除去手術 日帰り(1時間程度)

J 帰国

ドクターの許可をもらい帰国の途へ

<参考までに> 前回 ハワイで移植された人の上記移植以外にかかった費用概算

待機期間中 医療費(透析) US\$35,000.00 2.5ヶ月 <ドナー待機期間>

待機期間滞り費(生活費) US\$21,000.00 3.5ヶ月 <ハワイ滞り期間>

人件費(通訳、コーディネーター) US\$12,000.00 3.5ヶ月

合計 US\$68,000.00